

未来につながる魅力的なまちづくり

10年後に目指すぐんまの姿

- ✓ 先進的な技術や発想で、群馬をリードする拠点が新たな「群馬の未来」を拓いています。
- ✓ 商業、医療、福祉などの生活サービスが維持され、誰もが暮らしやすい居住環境が確保されています。
- ✓ 移動の利便性が高まり、企業集積や観光地のにぎわいが増すとともに、生活サービスを利用しやすくなっています。
- ✓ こどもたちが安全に通学できる環境の整備が進み、子育て世代も安心して住めるまちになります。

10年後の姿の実現に向けた施策

人口減少と高齢化が同時に進行する局面においても、誰もが生活に必要な都市機能を持続的に享受できるよう、広域的な観点から市町村のまちづくりを支援しながら、暮らしを支え安全で快適に移動できる環境を整備し、群馬の強みを活かしたエリア価値を創造する未来投資を進めることで、誰もが地域に魅力を感じ、幸福を実感できるまちづくりを推進します。

施策 1

共創 GI

エリア価値を創造する 未来投資

- 独自性を持った先進的なリーディングプロジェクトを推進します。

空間デザインやインフラ整備等を通じて、市町村が進める未来につながるまちづくり構想の実現を支援します。



施策 2

共創

持続可能で暮らしやすい まちづくり

- 適正な土地利用と居住環境づくりで「まちのまとまり」を維持します。

誰もが生活に必要なサービスを持続的に享受できるよう、土地利用計画、市街地整備、空き家対策等を通じて、「まちのまとまり」を維持します。



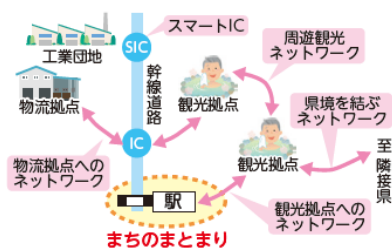
施策 3

DX

地域の暮らしや経済活動を 支えるインフラ整備

- 物流・人流を支える広域道路ネットワークの整備を進めます。

物流・人流ネットワークや都市間連携ネットワークの構築、現道拡幅等の域内道路整備により、円滑な移動環境を整備します。



施策 4

共創

誰もが安全に 移動できる環境づくり

- 安全で快適な歩道や自転車通行空間の整備を進めます。

通学路の歩道整備、中高生の通学経路等の自転車通行空間整備を優先的に進め、こどもたちの安全な通学環境を整備します。



施策1 エリア価値を創造する未来投資

取組1 個性を活かした地域のリーディングプロジェクトの推進

1 ウォーカブルなまちなかの形成

将来の具体的なまちなみや空間イメージなどの長期的なビジョンを官民で共有しながら、自家用車中心の道路を公共交通と人中心の空間に転換するなど、居心地が良く歩きたくなるまちなかづくりを目指す取組を進めます。

道路空間の再構築

新技術導入を見据えて新たな道路インフラの可能性を検討するとともに、自動運転実証実験の結果を踏まえた段階的な道路空間の再構築などの検討を進めます。

【事業箇所】

- ・県庁～前橋駅クリエイティブシティ構想では、国際コンペにより決定した都市空間デザインを踏まえ、令和8年度は、引き続き基本設計を進めるとともに、民間主導による賑わい創出を促進するため、沿道店舗や住民と連携した社会実験を実施します。

▼ 県庁～前橋駅クリエイティブシティ構想 ▼



国際コンペ最優秀作品（本町二丁目五差路交差点）

官民共創による公共空間を活用したまちづくり

官民が連携して、公共空間の新たな活用方法の検討や、沿道との一体的な活用を前提とした街路整備など、エリアへの民間投資を促すまちづくりを進めます。

▼ 敷島公園新水泳場整備 ▼



完成イメージ

【事業箇所】

- ・敷島公園新水泳場整備では、敷島エリアグラウンドデザインを踏まえ、民間事業者のノウハウを活用するPFI方式で整備を進めています。令和8年度は、新水泳場の建設工事を実施します。

2 デジタルクリエイティブの拠点づくり

新群馬の創造に向けた3つの近未来構想の一つである「クリエイティブの発信源」を実現するため、群馬県ではデジタル・クリエイティブ産業を新たな産業の柱にすることを旨とし、クリエイターやクリエイティブ企業が活躍し続けることができる環境（エコシステム）の構築に取り組んでいます。

【事業箇所】

- ・堤ヶ岡飛行場跡地活用として、令和7年度は土地利用上の関係機関調整を通じて、デジタル・クリエイティブ産業拠点の実現を支援します。

3 クリーンエネルギー産業の拠点づくり

「2050年に向けた『ぐんま5つのゼロ宣言』」における「温室効果ガス排出量『ゼロ』」を実現するため、本県の持つポテンシャルを最大限活用したクリーンエネルギーを供給・活用する拠点を県内に創出する市町村の取組を支援します。

【事業箇所】

- ・吉岡町がクリーンエネルギー構想で掲げる新たな産業団地へのアクセス向上に寄与する県道前橋伊香保線（吉岡バイパス）の事業着手に向けた検討を引き続き実施します。

4 リトリートの聖地にふさわしい公共空間づくり

新群馬の創造に向けた3つの近未来構想の一つである「リトリートの聖地」の実現に向けて、アクセス環境や道路景観の改善、景観形成の誘導、歴史的なまちなみ形成の支援など、リトリートの聖地にふさわしい公共空間づくりを市町村と連携して検討します。

政策
3

TOPICS



国の補助・交付金の採択に向けた各種調査等を実施

- | | |
|----------------------|-------------------|
| ■ 県庁～前橋駅クリエイティブシティ構想 | ▶ 社会実験 を実施予定 |
| ■ 県道桐生伊勢崎線バイパス | ▶ 橋梁予備設計等 を実施予定 |
| ■ 県道前橋伊香保線（吉岡バイパス） | ▶ 事業着手に向けた検討 を実施中 |

施策2 持続可能で暮らしやすいまちづくり

取組1 適正な土地利用による「まちのまとまり」づくり

1 市街地における居住と都市機能集積の促進

駅周辺や市役所等の地域の拠点に都市機能の核となる施設の集積・誘導を図り、周辺に居住機能を誘導するため、「都市機能誘導区域・居住誘導区域」の指定を促進します。

立地適正化計画策定支援

「まちのまとまり」を維持するため、策定委員会への職員の派遣や技術的な助言等により、市町村の立地適正化計画の策定を支援します。

【事業箇所】

- ・R7までに計画策定済み : 伊勢崎市、館林市、沼田市、みどり市、安中市、大泉町
- ・R8計画策定完了見込み : 桐生市、藤岡市、甘楽町
- ・R8計画策定着手予定 : 吉岡町、明和町、千代田町

2 郊外部の「まちのまとまり」を維持する計画的な土地利用

「市街化調整区域の地区計画」や特定用途制限地域などの土地利用規制を活用し、合併前旧役場周辺や既存集落等に「まちのまとまり」を維持するよう市町村を支援します。

取組2 誰もが暮らしやすい居住環境づくり

1 快適な生活空間の整備

エリアの価値と持続可能性を高めつつ、快適な居住環境を形成するため、土地区画整理事業をはじめとする市街地整備や都市公園の整備・運営管理を行います。

土地区画整理事業負担金

【事業箇所】

- ・伊勢崎駅周辺第一地区（伊勢崎市）ほか8地区

2 空き家対策の総合的な推進

空き家対策の推進

「群馬県空き家利活用推進協議会」を活用し、空き家対策の情報共有、市町村への情報提供・助言等を行うほか、「空き家対策セミナー」を開催します。

古民家再生・活用推進

官民共創チーム（コミンカコナイカ）を組織し、古民家の物件掘り起こしやマッチング等を行う「地域アドバイザー」を選任します。また、古民家・古材の情報データベースの更新、保守等を行います。



内観



外観

児童福祉施設に改修されたマッチング事例

取組3 地域の誇れる景観づくり

1 景観まちづくりの推進

景観計画の策定支援

市町村が「景観計画」を策定し、きめ細かな規制誘導方策を展開できるよう、市町村の景観行政団体への移行を支援します。

2 ぐんまの風景を魅せる施設整備と規制誘導

地域の風景や景観に配慮した施設整備

道路を走りながら、山々や街並みなどの周囲の風景を魅せるよう、景観に配慮した道路施設等の整備を検討します。また、災害時に電柱が倒壊して道路が寸断されるのを防ぐ無電柱化においても、景観形成・観光振興を推進します。

【事業箇所】

- ・国道292号 浅間・白根・志賀さわやか街道（草津町～中之条町）、富岡神流線 電線共同溝（甘楽町）において、景観に配慮した道路整備を推進します。

地域の特性に応じた屋外広告物の規制誘導

観光ルート等における良好な景観形成を図り、ぐんまの魅力とブランド力を高めるため、県内の主要観光ルートや高速道路等のIC周辺道路の沿道地域等において、景観誘導地域を指定し、地域の特性に応じた屋外広告物の規制誘導を推進します。

【事業箇所】

- ・渡良瀬幹線道路沿道にふさわしい景観形成を図るため、屋外広告物の規制誘導を検討します。

▼ 景観に配慮した整備事例 ▼ （桐生田沼線・桐生市本町）



無電柱化事業の事例

▼ 屋外広告物の規制誘導事例 ▼



上信自動車道景観誘導地域

取組3 地域の暮らしを支える域内道路整備

1 渋滞やすれ違い困難を解消する道路整備

現道拡幅

安全で快適な移動ができるよう、道路を拡幅することで通行車両のすれ違いを容易にするための道路整備を推進します。

▼ 国道406号 大戸工区 ▼



現道拡幅の整備状況

【事業箇所】

- ・ 国道406号 大戸工区（東吾妻町）等の現道拡幅を実施します。

交差点改良

渋滞を解消するため、交差点へ右左折レーンを設置する交差点改良を推進します。

【事業箇所】

- ・ 県道太田大間々線 阿左美岩宿交差点等の交差点改良を実施します。
- ・ 東毛広域幹線道路 綿貫町北交差点の左折レーン設置工事を実施します。

交差点改良の一例

▼ 県道太田大間々線 阿左美岩宿交差点 ▼

3つの交差点が連続し、右折待ちの車両により渋滞が発生しており、円滑な交通に支障となっています。



整備前の状況

阿左美岩宿交差点に右折車線を設置することで、渋滞を緩和し、円滑な交通を確保します。



完了区間状況

進捗状況

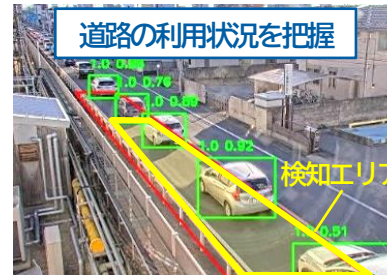
令和8年度は事業用地の用地取得を行います。

2 デジタル技術を活用した道路交通マネジメント

令和7年度に実施した太田市街地の渋滞緩和を図る実証実験の結果を踏まえ、朝夕通勤時間帯における中心市街地の渋滞緩和を図るため、デジタル技術を活用した道路交通マネジメントの取組の具体的な内容を定める全体基本計画の策定について、検討します。

道路交通マネジメントの一例

▼ 令和7年度 太田市街地の渋滞緩和を図る実証実験 ▼



カメラ画像のAI解析により
車両の間隔や通過状況を検知

渋滞情報をリアルタイムに提供



電光掲示板
(デジタルサイネージ)

Column ▶ 時間短縮だけではない道路整備の多様な効果

国土交通省の社会資本整備審議会道路分科会 第65回国土幹線道路部会により「令和6年能登半島地震を踏まえた緊急提言」が公表され、地域安全保障のエッセンシャルネットワークの早期確立等と併せて、道路整備の「多様な価値に対応した評価」の必要性が指摘されています。

道路整備の費用便益分析では、便益として走行時間短縮便益等の3便益を計上していますが、このほかにも多様な投資効果を評価している例があります。

これまでの費用便益分析

- ・ 走行時間短縮便益
- ・ 走行経費減少便益
- ・ 交通事故減少便益

これからの多様な効果の検証

- ・ 時間信頼性向上効果
- ・ Co2排出削減効果
- ・ 救急医療アクセス向上の効果など

施策4 誰もが安全に移動できる環境づくり

取組1 子どもたちが安心して通学できる環境づくり

1 関係者と連携した通学路合同点検や交通誘導員活動支援

学校や警察等の関係機関や地域住民と連携し、利用実態を踏まえた通学路の合同点検を行います。また、子どもたちが安全に登下校できるよう、交通指導員の活動費の一部を補助するなどして活動を支援します。

▼ 交通誘導員活動支援 ▼



2 通学路等の歩道整備

通学路においては、合同点検結果を踏まえ、重点的に歩道整備を実施します。歩行者優先の考えのもと、歩行者の移動空間と自動車との分離を図ることで、接触の危険を排除し、安全な歩行空間へ改善していきます。

【事業箇所】

- ・(都)赤城山線(前橋市)、県道井野停車場線 井野町工区(高崎市)等の歩道整備を実施予定

歩道整備の一例

▼ 県道井野停車場線 井野町工区 ▼

歩道が無く、歩行者は路肩を歩くため、交通事故のおそれがあります。



整備前の状況

歩道を整備することで、歩行者の安全な通行空間を確保します。



完了区間状況

進捗状況

令和8年度は用地取得、埋蔵文化財調査を実施します。

取組2 中高生が安心して通学できる環境づくり

1 自転車通行空間の整備や注意喚起看板の設置

自転車通行空間の整備

限られた道路空間の中で、現地状況に応じた道路空間の再配分による自転車通行帯整備の検討や矢羽根型路面表示の整備を進めます。

【事業箇所】

- ・県道前橋高崎線、県道前橋安中富岡線で、自転車通行空間の整備を実施予定

▼ 矢羽根型路面表示 ▼



県道藤木高崎線の整備状況

2 自転車事故対策の実施

自転車事故発生箇所のデータと自動車の急ブレーキ発生箇所や人の動きに関するデータなど、官民連携によるデータ分析を行い、事故リスクの高い箇所に対して路面標示や注意喚起看板などの自転車事故防止対策を実施します。

【事業箇所】

- ・中高生の自転車事故が多い前橋市、高崎市、伊勢崎市、太田市で重点的に対策実施



事故リスク分析



自転車走行分析アプリ

2 ヘルメットの着用促進や交通安全教育の実施

県職員による自転車活用推進啓発チーム「GMET」による啓発活動やSNSを活用した情報発信等を通じ、ヘルメットの着用や自転車保険の加入促進を図ります。

また、官民で連携した「交通安全啓発キャラバン隊」によるドライバー向け自転車事故防止街頭啓発活動を実施します。また、自転車を利用した参加・体験・実践型の交通安全教育手法を積極的に活用します。

▼ 交通安全啓発キャラバン隊 ▼



取組3 高齢者が安心して外出できる環境づくり

交通安全教育等の意識啓発

交通安全教育等の意識啓発や反射材の普及促進など夜間歩行中の視認性向上に取り組めます。また、運転免許証を自主的に返納しやすい環境づくりに取り組めます。

【事業箇所】

- ・歩行者対策として、県内の各警察署管内で、反射シール約5千枚を配布予定
- ・運転者対策として、先進安全自動車の体験乗車や運転適性検査等を取り入れた交通安全教育「高齢運転者ミーティング」を県内16警察署管内で実施予定